

令和5年度 社会福祉法人泰斗 事業報告

地域密着型特別養護老人ホームくぬぎ荘
施設長 魚谷 康洋

【はじめに】

令和5年度の地域密着型特別養護老人ホームくぬぎ荘の事業内容についてご報告いたします。本年度も「感謝」と「奉仕」と「誇り」の精神を礎に、地域社会に貢献する社会福祉法人を目指して、様々な取り組みを進めてまいりました。全産業に共通する労働力不足、物価高騰等経営課題は山積している中、くぬぎ荘の職員一丸となって以下の内容に取り組みましたので、それぞれの実践内容及び課題等をまとめております。

【リスクマネジメント】

転倒や誤嚥の重大事故については、令和4年度の反省を踏まえ、事故防止委員会を中心に事故に対する対策を強化しました。事故発生状況の分析や再発防止策について職員全体で共有できるようにしました。特に転倒事故については事故の当日に再発防止に向けたカンファレンスを開催することを心がけました。転倒事故を完全に無くすことはできませんでしたが、骨折等の重大事故は1件のみでした。

職員研修はこれまで集合研修で行ってまいりましたが、休みの者や夜勤者及びユニット内の見守り職員と全職員が参加することができないため、令和5年度は研修テーマに沿った研修動画を全職員が視聴できるようにオンデマンド研修に切り替えました。研修テーマごとに研修動画の視聴期間を定め、期間内に全職員視聴し、研修報告書を作成するようにいたしました。これまで休日、夜勤等で参加出来なかった職員も研修を受けることができるようになり、全職員の知識向上とスキルアップを図りました。

感染症対策につきましては、令和4年度のクラスター発生の経験から、特に力を入れておりました。しかし、12月に職員9名、入居者20名が新型コロナウイルスに感染するという2回目のクラスターが発生しました。前回に比べ感染者数は多かったものの、重症化する方は少なく約2週間で収束いたしました。施設での感染対策についての課題を再認識いたしました。

【法令遵守】

法令遵守に関しましては、年間研修計画に基づき、法令に定められた研修(事故防止、感染症対策、認知症介護、看取り介護等)を実施いたしました。また、運営推進会議等の会議を定期的で開催いたしました。

令和6年の介護報酬改定に備え、報酬改定に関する資料を各専門職と共有し、全体で読み合わせを行うことで、制度改定の内容を精査し、加算および減算の要件を詳細に把握するよう努めました。

【権利擁護】

高齢者虐待防止、身体拘束廃止、プライバシー保護、個人情報保護に関して、職員研修を通じて全職員の意

識を徹底的に向上させました。プライバシーに配慮した質の高い介護サービスの提供を心がけ、入居者のプライバシーを守るための努力を重ねました。身体拘束を行わない方針を堅持し、入居者の安全と尊厳を最優先に確保しました。

【経営の安定化】

経営の安定を図るために、利用料収入の増加を目指し、医療機関や居宅介護支援事業所等への営業活動積極的に行いました。新規入居申込者(待機者)の確保に加えて、入院期間と空床期間の短縮も図りました。その結果、12月には新型コロナウイルスのクラスターが発生しましたが、1日の平均入居者数は開設以来最高となりました。さらに、入居申込者数も過去最多となりました。しかし、残念ながら令和5年度の予算である1日平均26名には至りませんでした。収入としては5月から看護師を採用したことで看護体制加算を算定できるようになり、1億3千2百万円を上げることができました。現状を維持しつつ、更なる収入アップを目指して引き続きサービスの質と安全性に努めてまいります。

【地域包括支援センター業務委託準備】

令和6年4月からの地域包括支援センター北1ささえりあ植木の業務委託に向け、着実な準備を進めて参りました。くぬぎ荘が位置する合志市とは相関性ない熊本市北区での地域包括支援センターの運営はくぬぎ荘の待機者確保に繋がる事業ではありませんが、地域包括支援センターの役割を果たすため事前準備として職員を厳選に採用し、研修プログラムにも積極的に参加させてまいりました。また、前法人からの引継ぎにおいても、円滑な移行を促すための慎重な配慮を行ってまいりました。令和6年度からの事業運営において地域、関係機関、行政の期待を裏切ることのないように法人として尽力していきます。

【まとめ】

令和5年度は、新型コロナウイルス感染予防のための自粛ムードが大幅に緩和されてきました。くぬぎ荘でも4月に久しぶりの外出行事としていちご狩りに入居者をお連れし、通常の施設運営に戻れるのではとの兆しもありました。しかし、12月にクラスターが発生し、再び感染対策に緊張感をもって取り組まざるを得ない状況になりました。又、ここ数年の異常気象のためか春、秋の本来過ごしやすい気候が極端に短く外出行事を企画することが極めて難しい状況です。様々な要因で予定通りに年間スケジュールを実施することが困難なことがありました。しかし、今後も利用者一人ひとりのニーズに寄り添い、質の高い福祉サービスを提供できるよう努めてまいります。